

# 圓満寺報

第 166 号

平成 28 年 6 月 15 日発行

天台宗 別格 安禪院円満寺  
本山 山

〒220-0061 横浜市西区久保町50-1

電話 (045) 231-4383

F A X. (045) 241-4499

http://enmanji-yokohama.jp/ e-mail:enmanji@xb3.so-net.ne.jp

## タイにてウェーサク祭盛大に勤修する



ウェーサク祭に参加した日本代表団

安禪院第四十世 住職 西郊良光  
円満寺第五世

御釈迦様の誕生、悟り、涅槃を一緒に行うウェーサク祭がタイのバンコクのマハーチュラロンコン大学、及び国連のタイ、バンコク会議場で開催され、日本からは代表団を含めて約百名の方が参加されました。

ウェーサク祭は梅雨明けの満月の時に行われる事になっており、今年は五月二十三日が当日にあたりました。このウェーサク祭には世界各国の仏教徒が参加され、今年は五十八ヶ国、三千五百人の参加で大変盛大に開催されました。

特に仏教国・タイで行われた事もあり、タイの王室よりフミポン国王のご息女・シリントーン王女が臨席されたのであります。いかに王室がこの行事を大切にしているかが解ります。

また世界の各国の仏教徒・僧侶が三千人以上参加がされる訳ですので、政府としての力の入れようも感じざるを得ません。

大会初日はバンコク郊外のアユタヤ地域にありますマハーチュラロンコン大学の会議場で式典・会議・意見発表がございました。

特に意見発表では現在の世界情勢について述べられ、環境破壊による気候変動、人種間の対立、また特に現在危機的状況にある難民問題に対して、

どのように対応するかという具体的な方策について意見が述べられました。

フランスの仏教代表は、ヨーロッパに於けるイスラムとは対立ではなく、互いに力を合わせ難民の救済に当たらなければならないと強く主張が述べられました。またドイツの仏教僧・仏教団体も同じような意見を述べ、特に東南アジアの仏教徒の協力を得たいと具体的に救援について力を貸して欲しいとの意見が述べられました。

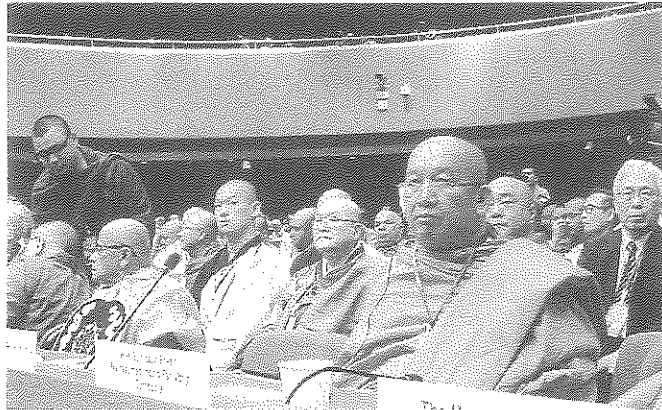
アユタヤの会議場での意見発表の翌日には、バンコクにあります国連会議場での式典・表彰・土産交換・そして最後に意見発表のまとめが行われ今年度のウェーサク祭の行事は終了したのであります。

日本代表の天台宗毘沙門堂門跡御門主の叡南寛範大僧正、日蓮宗の妙本寺貫主、玉川寛祥上人、そして小生の三人が日本代表を勤め、ITRIの松本代表と共に、ウェーサク参加の役割を果たしたのであります。

忘れられない事は、このウェーサク祭にスリランカから参加の百二才の大僧正が参加され、来年のウェーサク祭をスリランカで行いたい由を演説し、拍手でもって承認された事であり、百才を越えて参加された事にも驚きましたが、演説された事に深い感銘を覚えたのであります。



大乘仏教日本代表団



小乗仏教の代表団



タイ仏教の代表サワイ師と



ウェーサクの会議場にて

# 臨床宗教師の役割

臨床宗教師とは、聞きなれない言葉だと思えますが、自分の属する寺社教会以外の公共空間で心のケアを行う宗教者を指します。キリスト教のチャプレンから由来している名称です。このチャプレンは、医療・福祉分野から、アメリカでは警察・消防分野などまで、そこに関わる方々の心のケアを担当しています。この日本版チャプレンが臨床宗教師です。

心のケアでは、「臨床心理士」や「カウンセラー」という職種が存在しますが、彼らと大きく異なる点は、宗教者として祈りを捧げられること、宗教的ケアができることです。まず、悩み苦しんでいる方の語りに「無条件で」耳を傾けます。たとえ相手が異なる信仰や思想を持っていても、「無条件で」その方の語りに耳を傾け、語る方がその問題を語ることで、自分の抱えている問題を認識し、自力で解決できるよう、宗教者は待ち続けます。

語りの内容も多岐に渡りますが、たわいもない韓流ドラマの話から、「死んだあとはどうなるのか」、「死ぬ瞬間は苦しいのか」という根源的な問いにも直面させられます。とりわけ、この「死後の世界」に関しては、宗教者自身の死生観をも問われますので、宗教

者も自分自身をより見つめる作業があらかじめ必要となります。

日本での臨床宗教師の中心的活動としては、死にまつわる相談活動が挙げられます。ホスピス緩和ケア、在宅ケア、グリーフ(悲嘆)ケア、そして自死(自殺)にまつわる活動など、徐々にではありますが、その活動が広がりつつあります。

また別の切り口では、一般市民を対象としたよろず相談が挙げられます。例えば、私が臨床宗教師仲間と立ち上げたのが、東京カフエデモンクという団体です。ここでは、一般の方を対象として傾聴喫茶、ひたらく言えば、何でも話を聞くお茶飲み場を提供しています。七月には、民生委員からの依頼により、都営住宅の独居高齢者を対象としたお茶のみ場を提供する予定です。

そして、臨床宗教師の最大の特徴は、宗教・宗派の垣根を越え、布教や伝道は決してしないことにあります。悩み苦しんでいる方に自宗派の教義を決して押し付けず、その悩みや苦しみにただ寄り添うこと。これが無宗教を自認する方が多い日本では、新たな形として宗教者に求められ、臨床宗教師が必要とされる背景となっています。

# 御盆会 (孟蘭盆) によせて

まず御盆の意味から考えましょう。年中行事としては正月と並ぶ大きな行事といえます。盆と正月は日本全体が休日となってしまうほどです。特に御盆は仏教の行事であり、先祖供養の行事だということです。

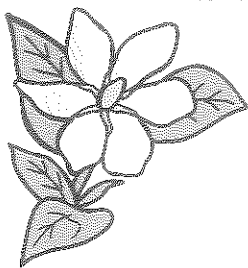
御盆とは「ウランバナ」と梵語で言われ、その意味はさかさに吊り下げられる苦しみと言う意味です。即ちさかさになって苦しんでおられる先祖様がおられるとしたら、その先祖様を救い供養する行事という事ができます。

近い身内及び肉親が亡くなって初めて迎える御盆を「新盆」といいます。新盆は故人の霊が初めて里帰りをする日でもあります。肉親が亡くなってまだ日が浅い方にとっては故人に

対する追慕の念が強いものではないでしょうか。そこで新盆には白張りの提灯を軒先に吊したり、仏壇や聖霊棚の両脇に飾り、追慕の念を深くします。また御墓参りをして、故人と対面し、先祖と自分のつながりを深く感じるのも新盆です。

御寺では御盆中に「施餓鬼会」の法要が行われますが、これも故人の方々の追慕と回向を通して、自分と先祖のつながりを深く意識するものになります。そこで御施餓鬼会にお塔婆を建て、先祖様をそこに御迎えをし、施食(ごちそう)を振るまつて供養をして一族が更に親交を深める場ともなります。

最近では親戚でもどうもあまりつき合いをしなくなつて参りました。しかし、叔父、叔母、兄弟、姉妹等とは互いの絆を深くし、先祖を通して親交を深めて行く事が大切であると思われまふ。御盆の行事を通して、もう一度その在り方を問う事が必要ではないでしょうか。そうすれば互いに困った時に必ず助け船が出てくる事と存じます。



## 円満寺勤行儀

### 第三回

#### 懺悔文

前号に続きまして、当寺でのお勤めでお唱えしているお経について解説いたします。

懺悔文は(さんげもん)と読みます。「我昔より造れる所の諸の悪業は、皆無始の貪瞋痴(とんじんち)に由る、身口意より生ずる所なり。一切我今皆懺悔したてまつる。」

内容としては、私が昔から作ってきた多くの悪い行いは、皆たどりきれない過去からのいかり、むさぼり、おろかの心に原因がある。身体と言葉と、心から生まれ出たそれら全てを私は今みな告白して悔い改めます、という内容になります。

お釈迦様が教えを説かれた時代から、こうした「懺悔」は非常に大事にされており、沢山の方法が考案・実践されました。懺悔文はそれを実践する、大切なお経になっています。

短いお経ではありますが、懺悔文を唱えながら仏様の前で素直に自分の心をさらけ出し、清らかな心で以後のお勤めに臨みましょう。

#### 開経偈

開経偈は(かいきょうげ)と読みます。「無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭い遇うこと難し。我れ今見聞し受持することを得たり、願わくは如来の真実義を解したてまつらん。」

内容としては、この上なくたいへん深く素晴らしい仏の教えは、百千万劫(劫は、カルパというとても長い時間の単位)という長い時間をかけてもめぐりあうことは難しい。それを私はいま見聞きし、しかもわがものとする事ができた。なんとしても仏の述べられた真実の教えを理解いたします、という内容になります。

この開経偈は天台宗はもちろんのこと、他の宗派でもお経を読むに先だつて唱えられます。円満寺のお勤めではこの後に法華経(妙法蓮華経如来寿量品)や般若心経等のお経を読みますが、開経偈を唱えずそれらのお経を読むことはありません。

自身が仏教に出会えた喜びと、自分が悟りを求め欲している表明をするための開経偈、心を込めてお唱えしましょう。